

生活支援コーディネーター通信 No. 7

～つながろう 支え合おう 福祉のまちづくり～

編集/渋川市社会福祉協議会(☎25-0500) 発行/2024.3.1

北橘地区 幸せをつなぐ黄色いベンチプロジェクト

たちばな支援の会ではこの取り組みを令和5年9月から始めました。前橋市桂萱地区で始まった活動について知る機会があり、「ベンチを設置することによって高齢者を見守る」「それが地域住民同士の交流場所にもなる」という発想に大変感銘を受けたことがきっかけです。

この活動は協議体構成員だけで完結させず、北橘地区の皆さんにもご協力いただきながら進めています。



桂萱地区の担当者を協議体会議に招待！詳細を教えてもらう

協議体会長がベンチを試作。会議にて「たちばな古里まつり」への参加を決めた！

「たちばな古里まつり」に試作のベンチを設置し、協議体の活動周知

北橘中学校の美術部生徒の協力を得て、ベンチの塗装・デザイン！

愛宕山ふるさと公園へのベンチ設置完了！

見守りが出来るで賞



続々製作中！
2月に5基追加

今後も学校との連携を継続し、地区内企業・店舗からも協賛をいただきながらさらに設置台数を増やしていきます！

たちばな支援の会では「若い人達にも福祉やボランティア活動について関心を持ってもらい、将来は担い手になってもらいたい」との思いから、学校への協力を計画しました。まず、北橘中学校の協力を得ることができ、協議体構成員が製作、美術部生徒が塗装・描画したベンチ4基が完成しました。

この4基は令和5年12月12日、北橘地区の愛宕山ふるさと公園へ設置することができ、協議体構成員はもちろん、製作にご協力いただいた中学生にも記念すべき日となりました。「自分が携わったことが地域の役に立っている」と実感できたことは、中学生にとって大きな経験だったのではないのでしょうか。

古巻地区

～買い物情報誌を発行しました～

古巻地区協議体では「スーパーが少ないエリアがあり、**高齢者が買い物や食事に困っているのではないか**」という話が会議に上がりました。

また、買い物支援をしている「とくし丸」や「あいのり」について構成員も存在を知らない、利用方法が分からない・・・ということが話し合いの中で分かりました。

構成員が知らない



地域の高齢者はもっと知らないのではないか・・・！



買い物情報誌を
発行することになりました！

8月

構成員がお店や企業へ調査！
調査票を作成し、必要な情報を
聞き取りました。

10・11月

チラシの内容を確認。
とくし丸訪問。
構成員目線で欲しい情報が
何かを話しながら修正。



12月

完成！
古巻地区へ毎戸配布。



気になった方へお渡し可能です。
担当SCへお声がけ下さい♪

赤城地区

困りごと調査実施！

外出時の交通手段	166
食事の支度	54
掃除・洗濯	46
ごみ出し	57
買い物	95
電球や蛍光灯の交換	58
健康不安	135
病気になった時のこと	166
介護に関すること	107
緊急時の支援	95
災害（避難等）	74
防犯（迷惑電話・訪問販売等）	88
話し相手	41
人間関係	24
その他	30

Q. 心配ごとや困りごとを
すべて教えてください。

第1位

「外出時の交通手段」
「病気になった時のこと」

第2位

「健康不安」

第3位

「介護に関すること」

赤城絆の会では令和5年10月より、
赤城地区全世帯の高齢者を対象に「高齢者の
困りごと調査」を実施しました。自治会へ配
布・回収の協力依頼をして構成員が集計した
ところ、配布数**3,125枚**のうち回収率は
51.7%でした。

調査では心配ごとや困りごとの他、困った
ときの相談相手や、市や社協が行っている
サービス、地域での助け合いについての質問
をしました。

全体としては「**今は困っていないけれど今
後が不安**」といった声が多数ありました。今
回の結果を基に協議体として出来ることは何
か、検討を進めていきます。

渋川地区

～認知症サポーター養成講座の開催～

渋川えがおの会では、地域住民を対象に認知症サポーター養成講座を開催しています。
令和4年11月12日の初回を皮切りに**半数以上の地区**で計10回の講座を開催し、**延べ
223人**の方に受講していただき、みなさんが認知症サポーターとなっています。
今後も渋川地区は「**認知症に関する理解者を増やす**」ことを目標に活動を継続していきます。

私は認知症サポーターです。



～受講者の声～

- ・わかりやすい研修で参考になった！
- ・繰り返し勉強したい。
- ・予防の重要性を認識した。
- ・寄り添う気持ちが大切だと感じた。

